地域に根ざした福祉活動 ハウスへの思い

なかよしハウス代表　足 立　　光

早いもので新鵜沼台の「なかよしハウス」も今年で７年目を迎えた。地域福祉は地域でのかけ声で各地域へ活動の実践が(ハウスの立ち上げ)委ねられた。

当時を思い起すと福祉するのは、どの様な人達にするのか、催し物はと。まずは福祉活動に参加していただける理解あるスタッフの開拓から始まり、他県、他支部での活動状況を調べたり、見学させていただき、新鵜沼台にあった出来るだろうと思うものは何かと線路のない道に動き始めた。

家の中に閉込りがちな人を、一人でも多く集うことが出来コミュニケーションが出来る心のふれ合いのあるハウスはと日夜検討し準備が進み始めた。

開催に当たっては、支援センターの方々の応援を受け、内容への参加をお願いしたこと、運営には活動の場所の提供と資金の支援を新鵜沼台自治会の応援を受け、スタートを切ることが出来たことが忘れられない。

又ハウスを訪れてよかったね、と思うものにしようと努力していただいた、多くのボランティアの方々、お客さんとして参加し支えていただいた皆さんに感謝・感謝の日々である。

活動の継続についてはボランティアされる人にも、福祉を受けられる方々にも変化が出てくると思います。その時には活動される新しい人達が次々と現れることでしょう。

それに携わるボランティアとお客さんの情熱が解決されるでしょう。

初心を忘れず努力したいと思うしだいです。

平成 23 年度「なかよしハウス」事業計画

開催場所：新鵜沼台コミュニティセンター

開 催 日：毎月第２金曜日 13 時～15 時

費　　用：１回 300 円

4月 8日	健康体操　お楽しみ会	11月11日	健康体操　ブルーベレーズ
5月13日	健康体操　綾等会	12月 9日	健康体操　正月向け物づくり (リースまたは花餅づくり)
6月10日	健康体操　福祉支援サービスの話 (包括支援センター)		
7月 8日	健康体操　ロコ、ハワイアン (フラダンス)	24年 1月13日	健康体操　ビンゴゲーム
9月 9日	健康体操　ホットガールズ	2月10日	健康体操　ゲーム
10月14日	健康体操　落語	3月 9日	健康体操　アンサンブルピエロ

鵜三支部のトレードマークです。

『ウッピィ』

ふれあい

第76号　平成23年3月15日

編集・発行　各務原市社会福祉協議会
鵜沼第三連合支部

社協のマークです

福祉の心を育てよう

支えて、支えられて、の１年

各務原市社会福祉協議会　鵜三連合支部長　森下　進一

社協鵜三連合支部長を拝命して、早くも一年になろうとしております。社会福祉活動とは無縁の私でしたが、友愛委員会の皆様の活動を始め、ふれあいフェスティバル、県、市社協主催の福祉大会、ボランタリーハウスのつどい等、参加していくうちにその必要性を感じてまいりました。

ここで社協の活動状況を紹介させていただき、私の感じたことを少し述べさせて頂きたいと思います。

○友愛委員会　寝たきり高齢者および身体障害者への配食サービス、高齢者等の方々への訪問、連絡等で活躍しています。

友愛委員会の皆様方には大変なご苦労をお掛けしております。また、「個人情報の壁」 に挟まれての活動には、頭が下がります。

○ふれあいフェスティバル　鵜三小学校にて、バザー、模擬店、演奏会、その他色々ふれあいの催しものを開催いたしました。

昨年度は新型インフルエンザの影響で中止になりましたが、本年度は開催する事が出来ました。担当役員の皆様方の並々ならぬご尽力のたまもの、と感謝しております。

地域に密着したふれあい活動と、各担当委員の高齢化の間に無理、無駄、が生じない様改革をしていかなければならない点が、在るように感じたことも事実でした。

○県、市の社協主催の福祉大会　各種社協の活動状況報告および、社協の場で活躍されている方々への感謝状の贈呈などが行われました。

県、市の社協が社会福祉事業に大変力を入れている事がよく理解できた大会でした。

○ボランタリーハウス　各務原市には現在、67 ものハウスが在り、各地域で活動されています。その活動状況が12 月の「つどい」で発表されました。

各ハウスの担当の皆様方は大変なご苦労をされている事、ボランタリーハウスとは大変重要、かつ必要な活動のハウスだと実感いたしました。

これらの活動を総括しますと、私が感じますことは、人間の本能には三つ在り（食欲、性欲、群居欲）、中でも群居欲を満たされない人間は、生きる気力を失い、結果的には寿命を縮めてしまう、と言われています。インターネットや携帯電話などのコミュニケーションでは満たされず、眼前に立って、見て、触れられる相手がいて、はじめて群居欲が満たされるものと思われます。

従いまして，先のボランティア活動、ハウス活動が必要、不可欠であり、今後、社協鵜三連合支部の会員、関係各位の活動の輪が益々必要になって来ると思います。

私は、皆様方に、教えられての一年間でしたが、私自身大変勉強になり、また、お世話になりました会員の皆様に感謝しております。

社協鵜三支部だより　　平成23年３月　No.76

「フェスティバル」を振り返って

ふれあい委員長　川瀬　久雄

ゴルフの幹事をやれば雨が降り、久方ぶりのスキー行は風雪で震えあがるという雨雪男の私です。天気さえ良ければ催し事は全て良し、といった理不尽なプレッシャーを掛けられて臨んだ「第24回ふれあいフェスティバル」でした。一昨年は直前の新型インフル騒ぎで急きょ中止となり、また今回もし雨だったら世間様に申し開きもできないと週間天気予報を毎日チエックしていましたが、地域の皆様の暖かいお心使いにより天候にも恵まれ、無事開催できましたことを心より感謝致します。

開催前日のテント設営などの準備に始まり、フェスティバル当日は早朝より交通安全協会の方々での駐車整理、JAみどり坂朝市会の野菜等の搬入、机・椅子の準備など自治会員の多くの皆様に大変お世話をお掛けしました。午前中は小学校の行事日程に合わせ各学年のふれあい参観としての特別学習が行われ、心の絵手紙やびっくり箱，校庭でのクロリティーやストラックアウト、ボウリング、ルーレットなどで子どもたちのはしゃぎまわる声が響きました。やがて中庭では各自治会の模擬店からヤキソバ、みたらし、お好み焼きなどの美味しそうな香りが立ち込めはじめ、帰りの会を終えた子どもたちと保護者がお目当てのテント前に並び始めました。

お昼からはチャリティーバザーも開始。毎年このバザーが楽しみと心待ちにされている方も多く，入場制限も苦にならない様子でした。ただ提供された商品の種類や販売の方法など、改善すべき点も残されていそうです。一方体育館では中学生の吹奏楽とハワイアンのいずれも素晴らしい演奏やダンスに魅了され、また幼稚園児の撮影タイムでの保護者のカメラの放列パワーには驚きでした。この見事な年長組のパフォーマンスをご指導頂いた先生方には、ほんとうに敬服です。そうこうしている間に終了時刻がせまり、後片付けモードに。開始時同様に多くの方々のご協力を頂き、手際良く１時間足らずで撤収が終わりました。またごみの始末、校庭内禁煙などにもご理解をいただきました。本当にありがとうございました。

毎年楽しく開催され長い歴史の中で熟成されたフェスティバルですが、回を重ねた故のいささかのマンネリ傾向と地域住民の少子高齢化、ふれあいの原点追求など見直しの時期にきているようです。小学校の今尾教頭からは「地域の皆さんの暖かい見守りで、鵜三の子供たちは本当にしあわせです」との言葉も頂き、今までは名古屋に通勤し家に帰って寝るだけだった私も、このイベントの担当を通じて地域とのつながりを少しは考えられるようになりました。時代の変せんとともにこの催しもあまり負荷のかからない形で運営され、地域とふれあいの原点を求めて新しい「ふれあいフェスティバル」として継続頂ければ幸いです。